



Japan Society for Tobacco Control

日本禁煙学会

<http://www.jstc.or.jp/> E-mail [desk@nosmoke55.jp](mailto:desk@nosmoke55.jp)  
〒162-0063 東京都新宿区市谷薬王寺町 30-5-201  
Tel 03-5360-8233 FAX 03-5360-6736

2021年6月18日

## 4) 我が国のコロナ禍克服のために すべての喫煙所を 閉鎖・廃止しましょう

日本禁煙学会 監事・とげぬき地蔵尊 高岩寺  
医師・住職 来馬 明規（くるま あきのり）

【はじめに】 喫煙所は「感染性有毒ガス発生所」です

喫煙所は新型コロナウイルス感染の機会を増やし、感染者・重症者を増やして社会・医療資源を浪費し、**目に見えないかたちでコロナ禍を深刻化させています**。屋内・屋外を問わず、全ての喫煙所の運用を中止し、恒久的な廃止を検討するべきです。

特にタバコ産業から資金提供を受けた公的喫煙所は、タバコ規制枠組条約 (FCTC) 5条3項の主旨に反する違法な施設であり、即刻廃止するべきです。企業にあっては構成員の健康を害し、業務を妨害し、利益を奪う、有害無益な施設です。

【1】喫煙所は新型コロナウイルス感染を媒介します

(A) 接触感染

**喫煙者はマスクを外して喫煙し、ハイタッチサーフェスに接触します。**(ドアノブ・テーブル・ライター貸借)

**汚い手指を口元につけて吸います。**毎回消毒すれば手荒れでかえって感染機転の増加を招きます

(B) 飛沫感染

喫煙者は典型的な3密施設のなかで、慢性の気管支炎症で咳をしながら利用しています。ウイルスが呼出煙、会話、咳・たん、クシャミ・唾液を介して室内に長時間浮遊します。利用者はニコチンの離脱症状回避最優先で駆け込むため、定員を定めても守りません。

(C) 吸い殻による感染

清掃担当者は受動喫煙にさらされながら唾液が付着した吸い殻を扱います。危険な作業ですが、十分な防護をしていません。

【2】すべての呼吸器感染症は喫煙により増悪します

喫煙所の本性は「喫煙を止めさせないための施設」であり、禁煙による新型コロナウイルス抵抗力の回復を妨害しています。

【3】感染防御と受動喫煙防止は両立しません

喫煙所は名目上、受動喫煙防止を目的とした施設です。しかし、喫煙者の健康を守り、非喫煙者の受動喫煙を防止し、ウイルス感染の防御をすべて満たし、コロナ禍克服に寄与する喫煙所はありません。

【4】悪影響が過小評価されています

全国の保健所による新型コロナウイルス感染経路特定の調査は、患者の喫煙状況や喫煙所の使用について十分な調査が行われておらず、その悪影響はかなり過小評価されていると推察されます。

VOICES | HOTLINE TO NAGATACHO

Mr. Mayor, tear down this smoking area and make Toshima a true 'safe community'



Lighting up a storm: The new smoking area in front of the East Exit of Ikebukuro Station in Tokyo's Toshima Ward is now open for business. | AKINORI KURUMA

←「豊島区長さま！池袋の喫煙所を廃止し本当のセーフコミュニティを実現してください！」

来馬明規 (文・写真)

報告者らは豊島区の喫煙所設置に反対してきた。しかし、JR池袋駅東口駅前ロータリーに、WHO セーフコミュニティを推進しながら、JTの寄付を得て喫煙所を設置した。豊島区は「街の美化になる」「受動喫煙防止に有用」「タバコ規制はセーフコミュニティの定義にない」と強弁し、建設を強行した。

コロナ禍の現在、この喫煙所は非常事態宣言を受け、感染防止対策の為に閉鎖された。しかし周囲は喫煙者で溢れ、違法喫煙とポイ捨てが横行した。先月メディアでも報道され(下写真)、結局閉鎖を解除せざるを得ないほど違法喫煙が横行した。豊島区はこれでもSDGsを推進し、喫煙率を低下させると云う。

ザ・ジャパン・タイムズ ホットライン・ナガタチョウ

2013年6月18日号



喫煙者はマスクを外してタバコを吸う

2020年9月15日

スペインのマスク事情・あるばの日々・goo ブログ



喫煙所を閉鎖してもその周囲で喫煙する人々

2021年5月25日 FNN プライムオンライン



清掃員の業務がハイリスクなのは目立たない  
産業医大・大和浩教授提供 出雲空港 2019年



喫煙所は典型的な3密である(某事業所にて)

2020年3月 産業医大・大和浩教授提供